

採 択 年 度

2025 年度

氏 名

池田 昌弘

所 属 機 関

がん研究会有明病院

課 題 名

がん患者における咳嗽に対するガバペンチンの有効性および安全性の検討：多機関単群前向き試験

助 成 額

3,000,000 円

研究報告概要

咳嗽はがん患者において高頻度に認められる症状であり、時に患者の生活の質を著しく障害する。現在、がん患者の咳嗽に対してオピオイドが広く用いられているが、その有効性を支持する質の高いエビデンスは限定的であり、不応例に対する有効な治療戦略は確立されていない。近年、難治性咳嗽の病態に、神経感作が関与する可能性が示唆されており、神経調節薬であるガバペンチノイドが注目されている。実際、非がん患者の難治性咳嗽に対しては、ガバペンチノイドの有効性が複数の臨床研究で報告されているものの、がんに起因する咳嗽に対するガバペンチノイドの有効性および安全性については、これまで十分に検討されてこなかった。そこで本研究は、がん患者の咳嗽に対するガバペンチノイドの有効性と安全性を前向きに評価することを目的とする。

本研究は、多機関単群介入研究で行う。対象は、がんに由来する咳嗽を有する成人患者とする。介入として、ガバペンチン内服を開始し、忍容性を確認しながら段階的に漸増するプロトコルを採用し、15日目に主要評価項目の測定を行う。評価項目は、日本語版レスター咳問診票（咳嗽 QOL 評価尺度）のスコア変化、咳嗽の VAS 変化、および有害事象とする。本研究は非特定臨床研究として実施する。対象患者からは同意文書によるインフォームド・コンセントを取得する。

本研究は、今後の検証的試験実施に向けて必要な予備的データを得ることを目的とした研究であり、がん患者の咳嗽に対する新たな治療選択肢の創出を目指す重要なステップである。さらに本研究結果は、日本緩和医療学会の『がん患者の呼吸器症状の緩和に関するガイドライン』における「咳嗽を有するがん患者に対して、プレガバリン・ガバペンチンは咳嗽を緩和するか？」に該当するエビデンス創出に繋がる。